

JXTG 児童文化賞・JXTG 音楽賞 概要

JXTG 児童文化賞および JXTG 音楽賞は、日本の児童文化、音楽文化の発展・向上に大きく貢献した個人または団体をたたえる目的で創設されました。毎年、児童文化賞、音楽賞邦楽部門、音楽賞洋楽部門本賞、音楽賞洋楽部門奨励賞の 4 賞につき、各々 1 個人または 1 団体が選ばれ、それぞれトロフィーと副賞賞金 200 万円が贈られます。

【JXTG 児童文化賞】

1966 年に創設された児童文化賞は、今年で 52 回を数える歴史ある賞に発展しました。受賞者と受賞分野の多彩さがこの賞の特色であり、作家、学者、研究者、評論家、歌手、俳優、野草園長、子供新聞の編集発行、人形劇の祭典、ミュージカル主宰など、全国的に著名な活動から地域の活動まで、児童文化の各種分野から幅広く受賞者が選ばれています。

【JXTG 音楽賞】

1971 年に創設された音楽賞は、今年で 47 回目を迎えます。また、洋楽部門では 1989 年より、日本を代表する優れた若手音楽家を讃えるために奨励賞が設けられています。邦楽部門においては、これまでに 21 人の受賞者が重要無形文化財保持者(人間国宝)に認定されています。邦楽部門・洋楽部門を併せ持ち、単年度内の功績ではなくそれまでの実績全体に視点をおいた選考を行っている点がこの賞の特色です。

選考方法

児童文化界、音楽界の有識者の方々に受賞候補者の推薦を依頼し、その結果を参考にして、各部門 3 名の選考委員により構成される選考委員会において審議の上、受賞者を決定しました。

選考委員 (敬称略、順不同)

【児童文化賞】	野上 暁	児童文化研究家
	仲居 宏二	放送コンサルタント・元聖心女子大学教授
	山極 壽一	京都大学総長
【音楽賞 邦楽部門】	徳丸 吉彦	聖徳大学教授・京都市立芸術大学客員教授 お茶の水女子大学名誉教授
	塚原 康子	東京藝術大学教授
	加納 マリ	日本音楽研究家
【音楽賞 洋楽部門】	関根 礼子	音楽評論家
	中村 孝義	大阪音楽大学理事長・名誉教授
	諸石 幸生	音楽評論家



「第 52 回 JXTG 児童文化賞」および「第 47 回 JXTG 音楽賞」は、2017 年、公益社団法人企業メセナ協議会による「This is MECENAT」に認定されました。

選考委員プロフィール

【児童文化賞】



野上 暁（児童文化研究家）

中央大学卒業。日本ペンクラブ常務理事。日本国際児童図書評議会副会長。日本児童文学学会会員。東京純心大学こども文化学科客員教授。著書に『おもちゃと遊び』『“子ども”というリアル』『子ども学 その源流へ』『越境する児童文学』『子ども文化の現代史』、共編著に『こどもの本ハンドブック』『いま子どもに読ませたい本』『明日の平和をさがす本』など。



仲居 宏二（放送コンサルタント・元聖心女子大学教授）

早稲田大学第一文学部哲学科卒業。NHKでは主に教育教養番組制作。学校放送番組部長、日本賞コンクール事務局長を経て、関連会社NHKエデュケーショナル常務取締役後、ボツワナ教育テレビ開設に引き続き、現在ベトナム、マラウイ、バングラデシュ、などの教育チャンネルのコンサルタントに当たっている。2012年より聖心女子大学教授を務め、2015年より同大学非常勤講師。



山極 壽一（京都大学総長）

京都大学大学院理学研究科修士課程修了。京都大学理学博士。人類学者、霊長類学者、ゴリラを主たる研究対象としている。（財）モンキーセンター リサーチフェロー、京都大学霊長類研究所助手、同大学院理学研究科助教授、教授を経て、現在京都大学総長。著書に『家族進化論』『「サル化」する人間社会』『京大式おもしろい勉強法』などがある。

【音楽賞 邦楽部門】



徳丸 吉彦

（聖徳大学教授・京都市立芸術大学客員教授・お茶の水女子大学名誉教授）
東京大学文学部卒業。ラヴァール大学より博士号。国立音楽大学・お茶の水女子大学・放送大学を経て現在は聖徳大学教授、京都市立芸術大学客員教授、お茶の水女子大学名誉教授。日本語による最近の著作は『ミュージックとの付き合い方：民族音楽学の拡がり』。他に『三味線音楽の旋律的様相』（仏語）、『音楽・記号・間テキスト』（英独仏語）、また、共編に『ガーランド世界音楽辞典7：東アジア』がある。



塚原 康子（東京藝術大学教授）

東京藝術大学大学院音楽研究科博士後期課程修了（学術博士）。現在、東京藝術大学楽理科教授。とくに近代を中心とする日本音楽史を専攻し、主要著書に『十九世紀の日本における西洋音楽の受容』『明治国家と雅楽』、共著に『はじめての音楽史』『日本の伝統芸能講座—音楽—』等がある。



加納 マリ（日本音楽研究家）

武蔵野音楽大学大学院音楽研究科（音楽学専攻）修了。武蔵野音楽大学講師。日本音楽史を専門に、雅楽、地方の舞楽、長唄、胡弓などを研究。文化庁芸術祭審査委員（音楽）、文化庁「次代を担う子どもの芸術体験事業」企画委員（伝統芸能）、文化庁芸術選奨選考委員（音楽）、国立劇場邦楽公演専門委員などを務める。

【音楽賞 洋楽部門】



関根 礼子 (音楽評論家)

国立音楽大学楽理学科卒。音楽旬報社勤務中から音楽評論活動をし、1981年よりフリー。現在、昭和音楽大学オペラ研究所嘱託研究員、『日本のオペラ年鑑』編纂委員、三菱UFJ信託芸術文化財団理事、東京オペラシティ文化財団理事、ニッセイ文化振興財団理事ほか。著書に『オペラの世界』『日本オペラ史1953～』、共著に『オペラ事典』など。



中村 孝義 (大阪音楽大学理事長・名誉教授)

関西学院大学大学院文学研究科博士課程修了。ヴュルツブルク大学音楽学研究所客員研究員、大阪音楽大学教授、同大学ザ・カレッジ・オペラハウス館長、大学院研究科長・学長を経て現在、理事長・名誉教授。さらに(独法)日本芸術文化振興会運営委員や(公財)ロームミュージックファンデーション、(公財)アフィニス文化財団など多くの財団の理事や評議員を務める。著書に『室内楽の歴史』『ベートーヴェン 器楽・室内楽の宇宙』『音楽の窓』など。



諸石 幸生 (音楽評論家)

早稲田大学法学部卒。(財)音楽鑑賞教育振興会において鑑賞指導法の研究を行うとともに、20世紀の演奏家を網羅した『演奏家大事典』の編集・刊行を行う。その後、音楽評論活動を始め、雑誌、新聞への執筆、及び放送番組解説などを行う。著書に『トスカニーニ、その生涯と芸術』『クラシック新鮮組』など。